2011年度　　B

国　　語

注　意

1. 問題は全部で14ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし，マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ○ を塗りつぶしなさい。○で囲んだり╳をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答がイのとき)

1	● ㋺ ㋩ ㋥ ㋭ ㋬ ㋣

4. 一度記入したマークを消す場合は，消しゴムでよく消すこと。╳をつけても消したことにならない。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

一　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

近年、発展途上国における貧困問題とその削減に世界的な関心が高まっている。保健・教育・所得など、生活水準を左右するほとんどの側面において、絶望的に低い水準に悩む途上国が世界には数多く存在する。先進国からの開発援助の究極的な目的をこのような[1]広義の貧困を削減することにおくことが、近年の潮流である。

発展途上国の経済発展のメカニズムを探り、これらの国の生活水準を向上させるための政策のあり方などについて分析する経済学の一分野が、「開発経済学」である。開発経済学者に欠かせないのがフィールドワーク。まず途上国の現地を見て、現地の問題を現地の人々と一緒に考えること、これがフィールドワークの第一局面である。続いて、問題が明らかになったら［　A　］、それをできるだけ実験に近い環境で実証的に検証する。そのような検証作業に欠かせない家計や企業、市場などのデータを集めること、これがフィールドワークの第二局面となる。ある程度のデータが集まれば、統計手法を駆使して問題の［　B　］。近年は、政策など要因が変化した場合にどのような影響が生じるかを統計的に［　C　］作業が盛んに行なわれている。このような研究の成果を、開発援助などの現場で活かすこと、それがフィールドワークの最終局面となる。

開発経済学を専攻する私が、現在、力を入れているフィールドが二か所ある。インドとパキスタン、どちらも所得が貧困線に達しない人口の絶対数という点では膨大であり、地球上から貧困をなくす上で鍵となる地域である。ただし、所得が一定水準に達しているか否かだけが貧困の基準ではない。貧困とは、所得以外の側面での剝奪、具体的には教育機会の剝奪、医療サービスへのアクセスの欠如、健康な生活への脅威、ジェンダー間の不均衡、社会的孤立などが低所得と有機的に関連した、複層的な概念であると捉えるのが、近年の貧困分析の特徴である。インドとパキスタンは、所得以外の側面での貧困も深刻である。とりわけ、農村末端での教育や保健などの基礎的なサービスの[a]フキュウの遅れは、見るに堪えない状況だ。

このような状況を解決するための担い手として、開発経済学者の注目を集めているのが、コミュニティである。人々のニーズを正しく把握するための情報を持ち、政策が適正に実施されているかを監視する能力を持つのが地域住民であり、その集合体が

コミュニティだからである。[2]しかし実際のフィールドで起きること、目にすることはそれほど単純ではない。

パキスタンでは現在、地方分権化政策が進められている。これまでの経済成長が国民全体に行き渡らず、低所得に苦しみ、教育・保健サービスへのアクセスを持たない多数の貧困層を取り残してしまったという反省のもと、分権化政策によって政府の質、ガバナンスの質を高めて、貧困削減政策を効率的に進めようという戦略が前面に出てきたのである。

具体的な仕組みとして新たに設けられたのが、CCB(Citizen Community Board)である。CCBは地域住民が自発的に組織し、地域のための開発プロジェクトを提案し、これに政府が資金援助を行なうという仕組みだ。しかし、新制度導入に伴う混乱、地方行政官・住民双方の能力不足、予算執行の遅れなどから適切に機能しているとは言いがたい。そこで日本の政府開発援助が同様の事例で成功をおさめたインドネシアの経験を移転しようという援助プロジェクトが始まり、私もこれにカンヨ[b]することになった。

日本のプロジェクトのモデル地区となったのは、パキスタン中部のパンジャーブ平原に位置するH県である。ここは、香り米や水牛のミルクといった特産品で知られる農業地帯で、夏に訪れると一面に水田が広がっている。

そんな農村のある村で住民を集めて、村に何が一番必要かを考えてもらった。我々としては、道路や灌漑用水、診療所、学校といった要望が出てくることを期待していた。ところが返ってきたのは、「イスラム教の祭礼施設が欲しい」という要望。その意見を誘導しているのは、宗教的指導者や生活に余裕のある村の有力者たちのようだった。宗教的な要望には誰も反対できないため、[3]社会的な問題を隠してしまうには都合がよい。また、生活に余裕のある村人にとっては診療所や学校は民間の施設(サービスの質はよいが高価である上、村からも遠い)を利用すればよいので、村から歩いていける公立施設の質が悪かったり、機能していないことに無関心なことが多い。機械的に住民に意見を聞くことによって、コミュニティの真のニーズを聞き出すことができるわけではないことがわかる好例であろう。このプロジェクトでは、その主旨が貧しい人たちの生活改善にあることを繰り返し説得し、納得してもらうまでにかなりの時間を使った。

とはいえ村に学校を作ることが必ずしも貧しい人たちの教育アクセス改善につながるとも限らない。パキスタンでは、就学率

を高めるために、歩いていける近くにできるだけ学校があるように公立小学校が増設されてきた。すなわちパキスタンの農村部の平均像は、ある程度の大きさの村には必ず小学校があるが、そこにいる教師の数はしばしば一名きり、よくても数名で、そこに五学年が一緒に学んでいることになる。公立学校の教師の給料は安いだけでなく、専門性の高さ(実際には学歴)と年功序列でほとんど決まる。実際の教育内容や教育の成果に応じて給料が上がるわけではない。すると教師が一名しかいない学校では、しばしば教師がずる休みをする。教師が出勤してきたにしても、極端な複式学級のもとで生徒が学べる内容は限られる。このように質の低い公立学校での教育をマの当たりにすれば、貴重な労働力ともなる子供を学校に行かせる必要はないと、貧困層の親が考えることは[D]。

この文脈において、[4]あるCCBプロジェクトによる農村道路整備の事例は興味深い。それまでの村の小学校は、天気が悪いと道がぬかるんで先生がこないので、休校が頻繁に生じ、学校として機能しているとは言い難い状況であった。ところが、道ができたことによって、貧困層の子どもたちまでもが隣村の大きな学校に通えるようになった。住民が農村道路の建設を計画したときに、この副次効果まで見越していたかどうかは定かでないが、賢明な選択だった。

「コミュニティ」と最近は日本語でもカタカナ書きされることが多いこの言葉、インドやパキスタン社会にとっても難しいようで、しばしば、ヒンディー語やウルドゥー語のアルファベットで「コミュニティ」という英単語がたどたどしく記されている。単なる地域住民を集合的に指すのであれば、どこに行ってもコミュニティが存在する。しかし「コミュニティ」という言葉には「共同体」というニュアンスがあるはずだ。南アジアの伝統的な農村社会の多くは、農地を代々保有してきた地主・自作農と、彼らに奉仕する土地なし世帯という二つの階層間のパトロン・クライエント関係=垂直的上下関係と、血縁に基づく一族意識のもと、村内の複数の有力地主同士が激しい派閥争いを行ない、それぞれの地主と関係をもつ土地なし層がその地主を支持するという水平的対抗関係によって特徴づけられてきた。したがって、貧富の差に関係なく村人が集まって、共通の開発問題を話し合うような土壌が伝統的に薄かったのが、南アジアの多くの地域である。

近年の開発援助政策において、コミュニティの役割が強調されていることは、このような社会においてどのような意味を持つ

のだろうか。ＣＣＢのような制度を導入すれば、すべてうまくいくような単純な問題でないことは明らかである。不用意にこのような制度を導入すれば、[5]既存の社会的な分断をさらに強化することにつながりかねない。他方、注意深くこのような制度を用いれば、新たな制度・仕組みが、既存の階層関係に［　E　］可能性を秘めている。それまでまったく発言力を持たなかった階層に、「コミュニティ」の成員として当然の発言を期待するのが、これらの制度・仕組みだからである。南アジア農村の経済発展において、共同体的色彩をある程度伴ったコミュニティが、今後、多く生まれていくことを夢見つつ、またフィールドに向かう私である。

（黒崎卓「コミュニティと経済発展」による）

問一　傍線部1「広義の貧困」とあるが、では、「狭義の貧困」とはどのような貧困か。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア　階級的な貧困
イ　経済的な貧困
ウ　精神的な貧困
エ　政治的な貧困
オ　民族的な貧困

問二　空欄 A ・ B ・ C のそれぞれに適切なものを入れ、文意が通るようにしたい。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア　A　概念を設け　B　予測をする　C　分析する
イ　A　普遍化して　B　設定をする　C　決定する
ウ　A　能率を考え　B　抽出を試みる　C　グラフ化する
エ　A　具体化して　B　解決に向け努力する　C　検証する
オ　A　仮説を立て　B　分析に当たる　C　予測する

問三　二重傍線部a「フキュウ」・b「カンヨする」の片仮名部分を漢字に直せ。

問四　傍線部2「しかし実際のフィールドで起きること、目にすることはそれほど単純ではない」とあるが、なぜ単純ではないのか。結論としてその一番の原因はどこにあると筆者は言っているか。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア　宗教指導者や村の有力者たちがコミュニティという考えに露骨な危機感を持っていて、事あるごとに地域住民の声は遮断されてしまうから。
イ　十分な教育を受ける機会がなかった住民たちの集合体にあっては、真のコミュニティは到底育ちそうにないから。
ウ　その集合体では既存の階層関係が伝統的に根強く、開発をみんなで話し合えるような土壌が育っていないから。
エ　コミュニティによるプロジェクトも、貧しい人たちの生活向上にはほど遠いものでしかなく、結局彼らの理解が得られないから。
オ　CCBなどを設けても、地域住民にとっては押しつけでしかなく、共同体としての真の役割が期待できそうにないから。

問五　傍線部3「社会的な問題」とあるが、次のア～オから、社会的だけではない問題を一つ選び、記号をマークせよ。

ア　識字率の低さ
イ　災害対策への不信
ウ　生きてあることの意味
エ　医療機関への不安
オ　ジェンダー間の差別

問六　二重傍線部c「マの当たり」の片仮名部分を漢字に直したい。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア　馬　　イ　魔　　ウ　間　　エ　目　　オ　真

問七　空欄 D に入れる一文としての最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　正しい決断だった
イ　間違っている
ウ　問題解決にはほど遠い
エ　感情的すぎる
オ　理にかなっている

問八　傍線部4「あるＣＣＢプロジェクトによる農村道路整備の事例は興味深い」とあるが、なぜ興味深いと言うのか。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア　子供の貴重な労働力も確保でき、子供を学校にも行かせる二重の成果があった事例だから。

イ　道路がよくなればおのずと学校が機能するという効果を企図し、見事に成功を収めた事例だから。

ウ　教育問題よりもまずは道路整備のプロジェクトが優先するのだという具体的な事例だから。

エ　ＣＣＢプロジェクトが地域住民の要望をしっかりと受けとめて成果を収めた事例だから。

オ　当初の計画意図には必ずしもなかったが、結果として教育アクセス改善にもなった事例だから。

問九　傍線部5「既存の社会的な分断をさらに強化することにつながりかねない」とあるが、

(1)　「既存の社会的な分断」とはどのような分断のことを指すか。筆者の見解として適切なものを、次のア～キから二つ選び、記号をマークせよ（三つ以上選んではいけない）。

ア　ＣＣＢを歓迎するものと、必ずしもそうでないものとの意見対立

イ　ある有力地主及び農民と、別の有力地主及び農民との対立

ウ　地主に奉仕する土地なし農民と、地主に奉仕することを拒否する土地なし農民とによる戦い

エ　国家権力が目指すものと、有力な地主たちの利益とが合致しないこと

オ　発展途上国と援助国、それぞれの思惑と打算

カ　富裕の地主と、土地を持たない農民という明確な階層の上下関係

キ　伝統的な上下関係を肯定するものと、それを拒否するものとの不和

(2) 筆者はなぜその分断を「さらに強化することにつながりかねない」と言うのか。その理由として最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 地域住民の各階層からさまざま意見が出たとしても、それらの意見は、その地域で生活する以上、地縁・血縁に基づいて発せられたものでしかなく、結局は既存の社会的分断を是認することに終始するだけだから。

イ 地域住民が共同体としての真のニーズを十分に引き出すことができないため、有力者の意見が反映されるだけの開発プロジェクトが進行して、かえって社会的な分断という現状を追認することになるから。

ウ CCBが地域のためのプロジェクトをいくら提案しても、富裕な地主たちによって選ばれた政府からの援助は期待できず、プロジェクトは遂行されないので、地域住民の失望は募り、いっそう社会的分断はひどくなるから。

エ たとえ地域住民の真のニーズがプロジェクトに反映されたとしても、期待が大きすぎて実現性の乏しいものであれば、見事なまでに失敗に終わり、結局は地域住民の無力感を増幅することになるから。

オ 地域住民が貧富の差なく共同体の開発問題を話し合えたとしても、次の会合では頓挫することがあり、話し合えるという幻想に期待をよせること自体が、現状の社会的構造に絶望感を抱くことにもなりかねないから。

問十 空欄 E に入れるのに最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア 風穴をあける

イ 風当たりを強める

ウ 風向きをうかがう

エ 風切る勢いをつける

オ 風色を見る

問十一　本文の内容に合うものを、次のア～カから二つ選び、記号をマークせよ（三つ以上選んではいけない）。

ア　低所得の地域における貧困の問題は社会的なさまざまな問題点と有機的に関連しているので、政治や宗教の問題を最優先にして取り組まなければならない。

イ　先進国からの開発援助は、発展途上国の生活水準を向上させる政策を支えるものでなければならず、それらの政策が十分に成果を上げていない場合は、その理由の如何を問わず、意味のないものとして他と変更しなければならない。

ウ　発展途上国の経済発展にあっては、貧富の差に関係なく、地域に共有の問題点を話し合えるようなコミュニティの役割がとても重要である。

エ　南アジア世界では富裕地主層と土地なし農民という階層の上下関係の固定した伝統があり、それを打破するために先進国はさまざまな分野において強力な経済的援助を惜しんではならない。

オ　経済援助国の経済学者は地域住民の真のニーズを知るために現地に出かけ、一にも二にも住民の直接的な声に耳を傾け、その要望を具体的実行に移すことを優先させなくてはならない。

カ　上から目線の、発展途上国への開発援助ではなく、地域住民たち自身が真のニーズをどのように引き出していくか、そのコミュニティ育成を支援することが、先進国側には大切なことである。

二　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

むかし、都の町はづれより、賀茂川の岸伝ひに、北山へ帰る老人あり。折ふし、十二月二十八日の夕暮れ、世間は春の事ども取り急ぎ、(1)心せはしきけふも、御堂下向の道芝に、紙包み見えけるを拾ひ上ぐれば、「小判三両」と書き付けあり。(2)「いかなる人の、節季をしまふ心当てにもや」と、跡先見しに、往来もなく、はるかの松陰に、柴売りと見えし人の立ち休むに追ひ付き、「そなたは是を落とし給はぬか」といへば、「いかにも我等落としたれども、その方の手に入るからは、そなたの物」といふ。

「是は近頃、迷惑なる申され分なり。たとへこの主のなきとて、取りては帰らじ。まして(3)主ある金子を、取りて帰るべきか」と、その者に渡せば、拾ひし者に帰しぬ。投げやれば、放りつけ、しばらくこの論やむ事なし。後には黒木売り・牛使ひ、立ちとどまりて、「今の世の中にはためしなき事ぞ」と、両人の心ざしを感じける。

いよいよ互ひに(4)道を立て、この小判をさまり所なく、とかくこの論、下にて済み難く、両人御前へ罷り出で、(5)右の段々申し上ぐれば、当番の役人衆聞き給ひて、(6)「前代になき事、これは都の今聖人なるべし」と、この段、御取り次ぎ申し上げらるる折ふし、御前には御気色悪しく、前後に京中の医者衆相詰められける。時に、御名代の家老職を召され、智恵試しにこの裁きを仰せ付けられしに、ここを大事と思案して、その拾ひし三両の小判を出させ、御前の小判三両合はせて六両を取り混ぜ、三所に置きて、「まづ落としたる者に二両渡して、一両の損也。又、拾ふたる者二両取れば、これも一両の損也。御前の金も一両御失墜也。両方ともに罷り立て」と、(a)申し付けられけるを、いづれも発明なる裁きなりと、これを感じ、この段御耳に立つるに、中々、(b)御同心なく、「その方どもが気のつけ所、相違也。この二人内談にて、かく取り結びし(7)作り物也。その子細は、拾ひし者、その主と論におよばず、捨てやうはさまざまありしに、ここに出でける所、第一の聞き所也。正直者と都に顔を見知らせ、するずる人をかたりのたくみせしには違ふまじ。その二人呼び返せ」と、又御前に召し出され、右の段々仰せ渡され、「ありのままに白状申さぬにおいては、拷問」と、厳しく御詮議かかれば、山家の者驚き、「あの者に頼まれ、何心もなく言ひ含め候通りに、拾ひ手に罷りなり、争ひ候」と申し上る。

「然れば、悪事は落とし手めがたくみなり。見分、*家に杖突く年をして、無用の心根、仕置きにもすべきなれども、おのれが身の上ばかり、外にさはらぬ事なれば、洛外までも払ふべし。」又、頼まれし者めは、久しく住所の鞍馬に近き麓里を、追ひ払ひ給ひけると也。

（『本朝桜陰比事』による）

＊御堂……浄土真宗の東・西本願寺、また別院をいう。
＊御前……ここでは京都所司代の板倉勝重、重宗父子が想定されている。
＊家に杖突く年……五十歳をいう。

問一　傍線部(1)「心せはしき」とあるが、その意味として最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　もの寂しい　　イ　せちがらい　　ウ　気ぜわしい　　エ　どこか憂鬱な　　オ　少しだけ忙しい

問二　傍線部(2)「いかなる人の、節季をしまふ心当てにもや」とあるが、意味が通るように言葉を補って現代語訳するとどうなるか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　たとえどんな人間でも、決算期にこの大金を見たら動揺せずにいられるだろうか
イ　誰がなくしたお金なのだろうか、年末の決算期を迎えるのに不安はないのだろうか
ウ　誰が授けてくれたのだろうか、これだけのお金があれば年末の支払いに充当できる
エ　年末の支払いのために準備していたお金をなくしてしまったら、誰だって不安だろうに
オ　誰が落としたお金なのだろうか、年末の支払いの心づもりで準備していたお金なのだろうか

問三　傍線部(3)「主ある金子を、取りて帰るべきか」の現代語訳として最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　主人の金を横領することなど、とても私にはできない
イ　持ち主が自明なお金を、そのまま持ち帰ろうとしているのか
ウ　一度ケチの付いた金を、そのまま取って帰ることなどできない
エ　落とし主が明らかな金を、そのまま持ち帰ったりなどできない
オ　お金の落とし主が判明した上は、曖昧なままで帰るわけにはいかない

問四　傍線部(4)「道を立て」のここでの意味として最適なものを、次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　道徳に従い　　イ　大声を出し　　ウ　主張を譲らず
エ　道に人を立たせ　　オ　道をふさいで

問五　傍線部(5)「右の段々」とあるが、具体的にはどのような内容か。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　小判の落とし主も、拾得者も互いに受け取ろうとせず、その帰趨(きすう)をめぐり争いとなっていること
イ　「小判三両」と記された拾得物の報酬をめぐり、落とし主と拾得者とが争いとなり、その決着が困難であること
ウ　小判の帰趨(きすう)をめぐってのささやかな争いが刃傷沙汰となり、黒木売りや牛使いの仲裁も不調に終わってしまったこと
エ　拾得物の中身を確認する前に落とし主と拾得者とが口論をはじめたため、内容の確認を公の場でする必要が生じたこと
オ　小判の落とし主と拾得者との口論が、黒木売りや牛使いを巻き込んでの争いに発展し、通行者の迷惑となっていること

問六　傍線部(6)「前代になき事」とあるが、「前代」のあとに漢字二字を補い、同じ意味の四字熟語を作れ。

問七　波線部(a)「申し付けられける」、(b)「御同心なく」の動作主を、それぞれ次のア～オから選び、記号をマークせよ。(同じものを二度使用してもよい)

ア　御　前　　イ　御名代の家老職　　ウ　北山へ帰る老人

エ　柴売りと見えし人　　オ　北山へ帰る老人と柴売りと見えし人

問八　傍線部(7)「作り物」とあるが、なぜそう判断し、その真意はどこにあると見抜いたのか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　もし公正な決着を求めて裁判を求めたのであれば、御前が病気でない時に訴訟を起こせばいいのに、わざわざ病気の時を選んだのは、未熟な家老職が担当すれば御前の金をだまし取るのに都合が良いと企んでいたことを見抜いた。

イ　三両程度の少額訴訟は本来なら当人たち同士で示談とすべきものなのに、年末の多忙な時期にわざわざ裁判に訴えるというのはいかにも怪しく、正直者の少ない時代への警告として、正月の芝居にしようと企んでいることを見抜いた。

ウ　もし小判の拾得者がそれを横領したいのなら、わざわざ落とし主を捜すことはしないし、まして裁判にまで訴えて決着を付けようというのは、「都の今聖人」として二人を奉行所に認知させ、人々に顕彰されたいと考えていたと見抜いた。

エ　もし騒動を円満に収拾しようとするなら、拾得金を二分するなど幾つも方策はあったはずなのに、わざわざ裁判に訴えたのは、正直者であることを京都の人たちに認知させ、自分たちの計画に協力させようと企てているのではないかと見抜いた。

オ　もし小判の拾得者が自分の筋を通したいのなら、小判をそのまま投げ捨ててしまうなどさまざまな方策があったはずなのに、わざわざ裁判に訴えたのは、京都の人たちに正直者と信用させ、後に詐欺などを企てようとしているのではないかと見抜いた。

問九　この話の内容の説明として間違っているものを、次のア～オから一つ選び、記号をマークせよ。

ア　事件は北山へ帰る老人と柴売りと見えし人とが共謀したものだった

イ　御前の病気は御名代の家老職に裁判をさせるための仮病だった

ウ　北山へ帰る老人と柴売りと見えし人は、二人とも追放となった

エ　御前以外の周囲の人たちは、当初御名代の家老職の裁きに感心した

オ　落とし主、拾得者、御前の三人がそれぞれ一両ずつ損をするという裁決を下したのは御名代の家老職であった

問十　裁判小説『本朝桜陰比事』の作者である西鶴は何世紀に活躍した人か、最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　十五世紀　　イ　十六世紀　　ウ　十七世紀　　エ　十八世紀　　オ　十九世紀